

Title	日本臨床死生学会第 18 回大会 : 大会事務局報告(総合研究所 News)
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.1, 2012.9 : 44-45
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3996
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

日程：2012年11月23日、24日

会場：女子聖学院中学校・高等学校

〒114-8674 東京都北区中里3-12-2

大会長：窪寺俊之（聖学院大学大学院教授）

2. 大会の開催の趣旨

1) スピリチュアルケアがまだ十分受け入れられていない現状の中で

第18回日本臨床死生学会は「スピリチュアルケアの実現に向けて——理論、実践、制度」とした。スピリチュアルケアへの関心は日本でもすでに10年以上になり、死生学に関係する学術大会では、スピリチュアルケアが取り上げられて数年になる。宗教者、心理学者、医療者、社会福祉等の分野で研究が少しずつ進んでいる。また、スピリチュアルケアの若い研究者も徐々に増えていることは非常に望ましいことである。

しかしながら臨床現場では、スピリチュアルケアが患者や家族に届いていない現状がある。スピリチュアルケアを担うチャプレンがおかれている病院・施設の数はずかしくない。また、スピリチュアルケアとは何かを理解しているスタッフも少ない。病院・施設の理念としてスピリチュアルケアを掲げて所も少ない。それがために、患者と家族が「どこでも、いつでも」スピリチュアルケアを受けられる状態にはなっていない。この問題を解決することが今回の学術大会の目的である。

そこで18回大会では、「スピリチュアルケアの実現に向けて——理論、実践、制度」と題して、三つの柱を立てた。スピリチュアルケアの理論的研究、スピリチュアルケアの実践報告、スピリチュアルケアを具体化するための制度的整備を追求する大会にしたいと願っている。

今回の大会では、できるだけ多くの方の意見と参加を募りながら、大会を作り上げたいと考えている。

特別講演をお願いしたポール・ウオン博士はフランクルの研究家であり、カウンセリングのセミナーなどを開催する理論家であり、かつ実践家である。企画委員を学内外に求めたのは、学術大会を幅広いものにし、臨床の場を視野にいたした研究大会にしたいからである。医療制度や経営的観点

日本臨床死生学会 第18回大会 大会事務局報告

日本臨床死生学会第18回大会が聖学院で開催されることになり、総合研究所が大会事務局を担当することになった。主題、開催日程、会場など、下記のとおりである。

1. 主題・日程・会場

主題：スピリチュアルケアの実現に向けて

——理論・実践・制度

から、スピリチュアルケアについての専門家の意見も聞きたい。

その他、スピリチュアルアセスメントの問題、スピリチュアルケアの専門家不足（人材不足）、ケアの医療費支払制度の欠除（医療制度）なども大きな課題である。このような問題を現在、スピリチュアルケアについて抱えている。

この大会には、看護師、医師、チャプレン、ボランティア、ソーシャルワーカー、行政官、宗教家、哲学者など広い人が参加できるものになりたい。このような沢山の問題を今回の学術大会で扱いたいと願っている。

2) スピリチュアルケアの理解の多様性の中で

スピリチュアルケアがまず問題になったのは、終末期がん患者へのケアであった。医師、看護師は身体的ケアに携わる。ソーシャルワーカーや臨床心理士は、心理的ケアに携わる。しかし、終末期がん患者が死後の生命に強い不安をもったり、あるいは深い罪責感をもっている場合、現在の日本の医療制度にはケアする人がいない。アメリカやヨーロッパではチャプレンが常駐していて患者と家族の霊的苦悩に対応する制度が整っている。キリスト教が背景にあって患者や家族へのスピリチュアルケアが整っている。

今日、日本ではスピリチュアルケアの理解に多様性がある。キリスト教的、仏教的スピリチュアルケアがそれである。日本では一部のキリスト教病院や仏教立病院でしかスピリチュアルケアがなされていない。将来一般病院でもスピリチュアルケアが受けられるようになるためには、スピリチュアルケアの理解を宗教の枠を超えた枠組みを考える必要がある。おそらくそれは「魂へのケア」と呼べるかもしれない。患者・家族が主役になるケアのありかたである。宗教、心理学、精神医学など多様な観点から患者に仕えるケアが求められている。

日本でも徐徐にいくつかの理論が出て来ているので、その検討も加えながら臨床に役立つスピリチュアルケアが構築されることを、今回の学術大会の目的にしたい。

3. 企画委員会

この大会を企画、運営するために下記の方々に企画委員会を構成していただいている。

①企画委員：

葛西賢太（宗教情報センター研究員）

小森英明（浄土真宗高田派僧侶、武蔵野大学研究員）

三澤久恵（人間総合科学大学教授）

林章敏（聖路加国際病院ホスピス医長）

松田卓（亀田総合病院緩和ケアチャプレン）

原敬（いたま日本赤十字病院緩和ケア部長）

大西秀樹（埼玉医大）

種村健二郎（武蔵野大学教授）

本郷久美子（三育学院大学看護学部長）

②聖学院企画委員：

窪寺俊之、平山正実、藤掛明、松本周、竹淵香織、豊川慎、山本俊明

詳細は大会のホームページを参照いただきたい。

<http://www.jsct.org/18th/>

☆総合研究所教員活動報告書について

2011年度から総合研究所も含む大学全体で教員活動報告書は機関リポジトリである『Serve』にて公開することになったため、Newsletterには掲載しないことになりました。『Serve』は下記のアドレスでアクセスできます。教員活動報告だけでなく、様々な研究活動の報告が掲載されていますのでぜひご覧下さい。

<http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/>

聖学院大学総合研究所 Newsletter

Vol. 22-1, 2012

2012年9月20日発行

発行人 大木 英夫

発行所 聖学院大学総合研究所

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1

TEL:048-725-5524 FAX:048-781-0421

e-mail: research@seigakuin-univ.ac.jp

Homepage: <http://www.seigakuin-univ.ac.jp>